

# 教員養成系大学の学生を対象とした防災教育を指導する 自信向上のための防災教育プログラムの成果と課題

松本涼佑 (信州大学)

## 1. 目的

本研究では、教員養成系大学の学生を対象とした、防災教育の指導の自信向上を目指したプログラムの開発と、プログラムの実施による指導の自信向上の効果と課題を解明することを目的とした。

## 2. 研究方法

- 1) 対象者：地方国立大学教育学部の、保健体育教員の免許取得を目指す学生(計 23 名)。
- 2) 調査方法：事前調査として自記式の質問紙調査による実態把握の後、教育プログラムを開発・実施し、最後に事後調査として自記式の質問紙調査と、教育プログラム評価調査を行った。
- 3) 分析方法：①Mann-Whitney の U 検定を用いて指導自信・防災知識を向上群と低下群、指導不安を軽減群と増大群に分類し、プログラム内の各活動の評価得点を分析し、② Spearman の相関分析を用いてプログラム内の各活動間の関連を分析した。

## 3. 結果と考察

- 1) 指導自信と関連のある項目  
事前調査では、指導自信と、指導不安の少なさ( $r=0.584$ )、防災知識の高さ( $r=0.526$ )との間に、有意な相関が認められた。
- 2) 開発したプログラムの内容  
プログラムは、知識の向上・不安の軽減を図る観点に基づき、①②③の内容で開発、実施した。(知識の向上のため①事前調査時に正答率が低かった知識問題の正答確認。不安の軽減のため②「釜石の軌跡」の動画視聴・議論、③各都道府県の学校現場における災害前・災害時・災害後の防災教育の取組についてのグ

ループ学習・発表。)グループ学習は事前課題として、取り組ませた。

## 3) プログラムの効果

プログラムに参加した学生は 20 人(参加率 87.0%)であった。自信合計得点の平均点は、実施前が  $33.0 \pm 6.4$  点、実施後は  $39.3 \pm 6.6$  点に向上した。自信向上群 18 人(90%)、知識向上群 16 人(80%)、不安軽減群 16 人(80%)であった。

## 4) 自信と有意差のあったプログラム項目

事前課題の取組に関する自己評価は、自信向上群と低下群の間に有意な差が認められた( $p=0.042$ )。

## 5) 事前課題の取組とプログラム項目の相関

事前課題の取組と「動画視聴時の議論による自信の向上( $r=0.701$ )」「動画視聴時の議論による意欲の向上( $r=0.687$ )」「正答確認による意欲の向上( $r=0.665$ )」「正答確認による参考度合い( $r=0.643$ )」「正答確認による自信の向上( $r=0.600$ )」に有意な相関が認められた。事前課題の取組を高く評価した人ほど、プログラムの他の活動の評価も高い傾向にあった。

## 4. 結論

開発したプログラムは自信および知識の向上、不安の軽減に効果があると示唆された。また、事前課題の十分な学習が、自信の向上および他の活動の効果の向上に寄与する可能性が示唆された。

## 5. 主な参考文献

- 1) 浅野祐菜 (2019) 教員養成系大学の学生を対象とした防災教育プログラム開発のための予備的研究